



群馬県立がんセンターだより

第33号

発行 平成28年10月 群馬県立がんセンター

理 念

私たちは、患者さんの意思を尊重するとともに地域と連携し、高度のがん医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利と意思を尊重します。
2. 地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
3. 教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

医薬品の適正使用に向けて

先日、『院内で使われる「麻薬」という言葉が気になる』というお便りをいただきました。

確かに「麻薬」と聞くと、ほとんどの方がマイナスイメージを持っていると思います。時折、テレビや新聞等において、自分自身を見失ってしまうほどの悪影響を及ぼす物の総称として、聞かされることがあるからです。

一方、病院内で使われる「麻薬」とは、治療のために用いられるものであり、乱用等で問題になる薬物とは異なります。今では、それらと区別するために、「医療用麻薬」と称しており、その主な使用目的は『疼痛治療』、つまり痛み止めです。

では、医療用麻薬は、どのような時に使われるのでしょうか。まずは、手術を思い浮かべてみてください。手術の際に、もし鎮痛薬がなかったら、とても耐えられません。手術時に使用される痛み止めの一つに医療用麻薬があり、まさに医療にとって必要不可欠な薬となっています。

さらに、医療用麻薬は、手術時の鎮痛薬としてだけではなく、がんの痛みを抑える薬としても使用されています。転移による腰痛や背部痛、そして内臓痛などにも効果があり、痛みの強さに応じて、投与量を調節しています。また、内服薬では錠剤・散剤・液剤、外用薬では貼付剤や坐剤、そして注射剤と、多種の剤形があり、状態に合わせて選択されます。成分も主なものでも3種類あり、検査値や副作用の発現状況を加味しながら、使い分けがなされます。取り扱い等については、一部規制がありますが、医師の処方に基づき適正に使用していただければ、大変有効な薬と言えます。

今や、がん医療における新薬の開発はめざましく、様々な作用機序の医薬品が登場しています。効果が期待される半面、副作用が発現する可能性もありますし、他剤との相互作用も確認しなければなりません。

私たち薬剤師は、新たな治療が開始される際には、治療が安全に行えるように、事前に投与量やスケジュール、検査値等を確認した上で、有効性や安全性、生活上の留意点等についてのご説明をさせていただいていますので、もし不安や心配なことがありましたら、是非お声をかけていただければと思います。

これからも、「薬あるところに薬剤師あり」、薬剤部職員一人一人が、悩める方々に寄り添いながら、より良い医療の提供を目指して取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



薬剤部長 三島 八重子

部署紹介

消化器内科



消化器内科が対象とするのは食道、胃、十二指腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓など広い領域の病気です。これらの臓器に生じるがんの、診断および手術以外のいわゆる内科的な治療を行っています。平成27年度の当科におけるがん患者さんの入院はのべ800人でした。

いずれのがんにおいても早期発見が重要となります。特に食道、胃、大腸がんでは早期がんに対する内視鏡治療により根治を目指すことが可能です。当科ではより確実性の高い内視鏡的切除（内視鏡的粘膜下層剥離術、ESD）を積極的に行い、症例数も毎年増えてきています。

肝臓がんについても早期の状態であれば、切除と同等の効果が期待できるラジオ波焼灼療法を行うことが可能です。肝内に留まっていればカテーテルを用いた肝動脈塞栓術などを行っています。

こういった局所療法が行えない患者さんに対しては、全身化学療法が適応となります。平成27年度にはのべ242人の患者さんが入院の上、抗がん剤治療を受けました。そういった患者さん方は引き続き外来で治療を継続しております。

がんの患者さんは、治療を行いながらも様々な症状が出現してきます。例えば消化管が狭窄してしまい、食事が摂れなくなってしまう場合には、ステントを留置し、再び食事が摂れるようにする、といった緩和医療も行っていきます。

現在消化器内科医は3人です。精一杯患者さんのために診療を行っておりますが、やはり全てを行うにはパワーが足りません。他科の先生方も含めた病院内のスタッフ、招聘医師の方々に助けをいただきながら、患者さんが元気になれるように日々頑張っています。

消化器内科部長 野川 秀之

在宅支援ティーミーティングを開催しました

退院後に、自宅で痛みや食事が摂れない等の症状への対応、点滴やストーマの管理が必要な患者さんの生活を支えるためには、地域の訪問看護師や在宅医との連携が必要となります。

院内と地域の医療者が顔の見える関係を築き、切れ目のないケアを行うことが患者や家族の安心に繋がり、住み慣れた環境で過ごすことを可能にします。

そのために年2回当院で「在宅支援チーム・ティーミーティング」を開催し、最新のストーマケア等の技術的な研修と退院や在宅療養支援で困難であったケースの事例検討会を実施しています。ここでは院内の看護師、医師、訪問看護師、在宅医等それぞれの立場から議論することで、参加者同士で気づけなかった視点を探り、次のケアに繋いでいく取り組みを行っています。



今年の7月に開催したがん患者へのリハビリテーションの研修では院外から100名以上の方が参加してくださいました。

今後も医療者同士が協力し合い患者さんや御家族が、がんと共に生きることを支えていきたいと思っております。

がん相談支援センター 松沼 晶子

摂食・嚥下障害看護認定看護師として

摂食とは「口へ食べ物を運ぶこと」、嚥下とは「飲みこむこと」を言います。摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割は、高齢や疾患により口から食べることが困難となった患者さんに対して、摂食嚥下機能を評価し、患者さんや御家族、多職種の医療スタッフと力を合わせて、安全に食べられるように摂食嚥下訓練や食事内容の調整をしていくことです。

具体的には、食べられる口を整えるために口腔内を潤しながら、舌や頬、歯の汚れをスポンジブラシや歯ブラシで除去していきます。飲み込むためには、口唇、頬、舌、首などの運動が必要となりますが、筋肉が硬かったり筋力が低下していると上手に飲み込めないことがあります。

そのため、ストレッチや筋力訓練を行います。筋肉を付けるには栄養も必要となりますので、栄養が十分に取れているか考えます。

そこで、栄養障害のある患者さんに対しては、NST（栄養サポートチーム）の一員として関わっています。

現在は6階西病棟に勤務し、主に頭頸部領域の患者さんの摂食嚥下機能の評価や訓練を実施しています。誤嚥や窒息、脱水や栄養低下などの危険を予防するため、痰の出し方や食事のアドバイスをしています。また、退院後も摂食嚥下訓練を継続できるように日常生活に取り入れられる方法を一緒に考えています。終末期の患者さんに対しても、最後まで口から食べられる喜びを家族とともに感じて頂けるように、安全な食べ物や一口量、姿勢を考えて援助をしています。

口から食べることは、生きる意欲や楽しみにつながります。そのため、少しでも役に立てるように頑張っていきたいと思います。



看護部 設楽 栄幸

ハローワーク太田との連携をはじめました

- 通院の必要はあるが、働きたい。
- 自分の病状、体力にあった仕事を見つけたい。
- 治療と仕事の両立の仕方について教えてほしい。
- しばらくぶりに仕事に戻ることに不安を解消したい。
- 就職活動で、企業に病気のことを伝えるべきか迷っている。



このような悩みに対し、当院がん相談支援センターとハローワーク太田が連携し、皆様の相談に応じます。

今すぐ就職希望の方も、徐々に考えたい方も、お気軽にご相談ください。

ご相談窓口：当院1階16番
がん相談支援センター
(平日9時～17時 土日祝除く)

当院 MSW：小池 ハローワーク太田：五十嵐

外来診療のご案内 (外来担当医一覧表)

平成28年10月1日現在

区	分	月	火	水	木	金	
第一外来	内科	消化器	野川 秀之	保坂 尚志	野川 秀之	山下 哲	保坂 尚志
		血液	五十嵐忠彦	五十嵐忠彦 入沢 寛之	村山佳予子	村山佳予子 村田 直哉	五十嵐忠彦
		呼吸器	湊 浩一 (午後/禁煙外来) 藤本 栄	藤本 栄		今井 久雄	
	外科	消化器	福田 敬宏	福田 敬宏	尾嶋 仁 深井 康幸 持田 泰 小川 敦 小澤 大悟	尾嶋 仁(新患) 深井 康幸 持田 泰 小澤 大悟	尾嶋 仁 深井 康幸 泰 小川 敦 小澤 大悟
		乳腺	柳田 康弘 藤澤 知巳 宮本 健志 森下亜希子	柳田 康弘 藤澤 知巳 宮本 健志 森下亜希子	乳腺科医師 (新患のみ)	乳腺科医師 (新患のみ)	柳田 康弘 (遺伝)
		呼吸器			藤田 敦 小野里良一		藤田 敦
		形成	廣瀬 太郎				廣瀬 太郎
精神腫瘍科				村上 忠		(午後ストーム外来)	
第二外来	婦人科	中村 和人 伊吹 友二 木暮 圭子 内山 陽介	中村 和人 伊吹 友二 木暮 圭子 内山 陽介	鹿沼 達哉	中村 和人	中村 和人 伊吹 友二 木暮 圭子 内山 陽介	
	歯科口腔外科	新垣 理宣		新垣 理宣		新垣 理宣	
	頭頸科	鈴木 政美 井田 翔太 (午前再診)		鈴木 政美 井田 翔太 (午前再診)		鈴木 政美 井田 翔太 (午前再診)	
				鈴木 政美 井田 翔太 (午後新患)		鈴木 政美 井田 翔太 (午後新患)	
	麻酔科	麻酔科医師				麻酔科医師 (午前 術前診察)	
泌尿器科	清水 信明 蓮見 勝 泌尿器科医師 (午後、新患のみ)	清水 信明 村松 和道 泌尿器科医師 (午後、新患のみ)	(1日リンパ外来)		清水 信明 蓮見 勝 村松 和道	清水 信明 蓮見 勝	
放射線科	放射線	江原 威 安藤 謙 川原 正寛	江原 威 安藤 謙 川原 正寛	江原 威 安藤 謙 川原 正寛	江原 威 安藤 謙 川原 正寛	江原 威 安藤 謙 川原 正寛	

※緩和ケア外来の受診を希望される方は「がん相談支援センター」へお問い合わせください。直通電話：0276-60-0679

展示のご案内 「人が乗る裸馬埴輪」の展示について

「人が乗る裸馬埴輪」は、昭和44年に県立がんセンターの敷地内で出土したもので、平成5年1月には太田市の重要文化財に指定されました。馬の背に袋のようなものを背負った人が乗る裸馬で、このような裸馬埴輪は全国的にも類を見ない貴重な埴輪であり、書籍にも度々紹介されています。

古墳時代の太田地域の人々が馬と非常に深い関わりを持っていたことを示すものであるため、当院の外来において公開展示しています。



診察予約 (初診、再診ともに予約制です。)

・初診紹介予約制について

当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時の予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をおとりください。

・がん検診について

当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行っております。

予約電話 0276-38-0762

- ・受付時間：午前9時から午後5時(休診日を除く)
- ・電話予約は診察を希望する日の1か月前から前日の午後1時までをお願いします。

※休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

入院者の面会時間 午後0時30分～午後7時30分

群馬県立がんセンター

〒373-8550 太田市高林西町617-1

TEL 0276-38-0771 (代)

FAX 0276-38-0614

URL <http://www.gunma-cc.jp>

